



武田 智文	
はかりしれないのち	1
葦原 理江	
彼岸の知らせ	11
志慶眞 文雄	
なぜ、仏教を聞かないといけないのか?	21
深川 宣暢	
「お彼岸―秋―」とは	31

本文中、『浄土真宗聖典(註釈版)第二版』は『註釈版聖典』と略記しております。

表紙絵・挿絵／土田菜摘

# はかりしれないのち

武田 智文

## ●限りなく

舍利弗、かの仏の光明無量にして、十方の国を照らすに障礙するところなし。このゆゑに号して阿弥陀とす。また舍利弗、かの仏の壽命およびその人民も無量無辺阿僧祇劫なり。ゆゑに阿弥陀と名づく。舍利弗、阿弥陀仏は、成仏よりこのかたいまに十劫なり。

(『註釈版聖典』一一三―一二四頁)

これは『仏説阿弥陀經』のちょうど中ごろに出てまいります、お經のご文であります。

お釈迦さまがインドの舎衛国の祇園精舎というところで、千二百五十人のお弟子に教えを説かれていました。お釈迦さまは、長老のお弟子の舍利弗さまに、

「その仏さまの光明には限りがないのです。さらにすべての国々を照らして、何ものにもさまたげられることがないのです。それで、阿弥陀と申しあげるのはです。また、仏さまの寿命も、その仏の国の人びとの寿命も、ともにはかりしれなく、限りなく長いのです。それゆえに阿弥陀と名づけるのです。阿弥陀さまは、仏となられてから、

今日までに、すでに十劫という、とても長い時間が過ぎているのですよ」

とお説きになっておられます。

### ●数え切れない数

ずいぶん前になりますが、お寺の掲示板に次のような法語を載せさせていただきました。





無量寿  
むりょうじう

いのちとは

すなわち

限らない願いの世界

(真宗教団連合『法語カレンダー

(一九九五年)』七月 平野恵子)

それをご覧になった、あるご門徒  
さんが、お寺に新聞の切り抜きのコ  
ピーを持ってこられました。

「ご任職さん、この数字の表を見る

と、それぞれの桁<sup>けた</sup>の読み方にゴウガシャとかナユタとかムリヨウとかた  
くさんお経のご文が書かれていますなあ」

とおっしゃいました。拝見しますと、『星の数より多い数字をどうやって  
思いついたのだろう』という題名の「記事」でした。一番左に「1」があ  
り右に「0」が七十五個つらなつた数字の表で、各桁の下に、十・百・  
千・と桁の読み方が書いてありました。

私たちが普段見かけるのは、一の桁から九桁目で、一億、あるいは、  
十三桁目で一兆ぐらいでしょうか。これが十六桁目で千兆となり、さら  
にその上は

「京」<sup>ケイ</sup>「垓」<sup>ガイ</sup>「杼」<sup>ジョ</sup>「穰」<sup>ジョウ</sup>「溝」<sup>コウ</sup>「澗」<sup>カン</sup>「正」<sup>セイ</sup>「載」<sup>サイ</sup>「極」<sup>ゴク</sup>